

H i b（インフルエンザ菌b型）予防接種説明書

＜ヒブ感染症の予防＞

ヒブ（H i b）感染症とは？

インフルエンザ菌、特にb型は、中耳炎、副鼻腔炎、気管支炎などの表在性感染症の他、髄膜炎、敗血症、肺炎などの重篤な深部（全身）感染症（侵襲性感染症とも言います）を起こす、乳幼児にとって問題となる病原細菌です。

H i bによる髄膜炎は平成 22（2010）年以前は、5歳未満人口 10 万対 7.1～8.3 とされ、年間 400 人が発症し、約 11%が予後不良と推定されていました。また、生後 4 ヶ月～1 歳までの乳児が過半数を占めていました。

現在は、H i b ワクチンが復旧し、侵襲性 H i b 感染症はほとんどみられなくなりました。

接種について

インフルエンザ菌は 7 種類に分類されますが、重症例は主に b 型のため、ワクチンとしてこの b 型が使われています。

その他のワクチンとの同時接種を行うことについては、その必要性を医師が判断し、保護者の同意を得て接種が行われます。

対象者	標準的な接種期間	開始時期	回数	接種間隔
生後 2 ヶ月～60 ヶ月	初回 生後 2 ヶ月～7 ヶ月	2 ヶ月～7 ヶ月 (標準的な接種時期)	初回：3回 追加：1回	・初回接種：生後 12 ヶ月に至るまでの間に 27 日（医師が必要と認める時は 20 日）以上 ・追加：初回終了後 7 ヶ月以上
	追加 初回終了後 7 ヶ月～13 ヶ月の間隔をおく	7 ヶ月～12 ヶ月	初回：2回 追加：1回	・初回接種：生後 12 ヶ月に至るまでの間に 27 日（医師が必要と認める時は 20 日）以上 ・追加：初回終了後 7 ヶ月以上
		12 ヶ月～60 ヶ月	1回	・一回のみ

追加接種の注意：生後 12 ヶ月までに定められた回数の初回接種を完了せずに生後 12 ヶ月以降に追加接種を行う場合、初回接種終了後 27 日（医師が必要と認める時は 20 日）以上の間隔をおいて 1 回

※接種開始時期によって接種回数が異なります。なお、長期にわたり療養を必要とする疾病などで予防接種を受ける事ができなかったと認められるお子さんに対しても同様とします。

副反応について

副反応としては、局所反応が中心で注射部位の痛み、発赤、腫脹（はれ）、硬結（しこり）、全身反応は発熱、不機嫌、食思不振などが認められています。

医療機関からの副反応の疑い例として報告された内の重篤症例の発生頻度は、0.0019%です。